

復活に続く十字架への道 マタイ 20:17-19

2025. 4. 13、丘の上 NO. 748
春日部福音自由教会 山田豊

本日は棕櫚の主日、エルサレムに入るイエスを、人々がナツメヤシ(棕櫚)の葉を打ち振って歓呼の声で迎えたことから、このように呼ばれています。それは十字架へと続く、イエスの生涯最後の道行きでした。

十字架の刑は、イエスの命を奪い、葬りへと続きます。しかしそれで終わりではありませんでした。復活へと続く道であったのです。私たちの信仰は、そこまで続いているのでしょうか？

十字架はキリスト教会シンボルマーク、神の愛の象徴となっています。いろいろな十字架ありますが、私が受難節の間黙想に使っていたのは、十字架の中が両手を広げたイエスの姿にくりぬかれたものです。また、布がかかった十字架もあります。カトリック教会でも、東京カテドラル聖マリア大聖堂の十字架のように、磔刑のキリスト像のない十字架があるのです。これらは、イエスの復活、昇天を表すもので、私たちの死が人生の終わりではないことを表しています。

確かに、人が死んだらどうなるのか、死後の世界はあるのかないのか、あるとしたらどういうものなのか、それはだれもわからないものです。科学者であれ、宗教者であれ、それぞれの確信に立って言っていることがあるのでしょうか。死んでみなければわからないことなのかもしれませんが、これは試してみることはできません。

少し横道にそれましたが、イエスのご自分の身に起こることを弟子たちには3度伝えていました。本日の聖書箇所は、いよいよエルサレムに入る直前に語った、3度目の告知です。果たして弟子たちは、イエスの言われた言葉をしっかりと受け止めていたのでしょうか。どうもそうではなかったようです。特に「三日目によみがえる」という言葉は、完全にスルーされていました。十字架刑の後、彼らはユダヤ人を恐れ、扉を閉めて部屋の中で固まっていたのです。彼らが外に出て福音を宣べ伝えるようになるのは、蘇られたイエスと出会い、復活の信仰をいただいてからでした。

昨年(2024)の4月28日、花の詩画家と言われた星野富弘さんが召されました。彼の葬儀で内田和彦先生が語られたのは、復活の信仰でした。この世の評価とは違う最も大切なことを話してくださったのです。私たちの人生は、肉体の死で終わりというものではない、イエスの十字架から復活を見る者は、命の希望をいただくことができるのです。

引用聖句

マタイ 16:21 そのときからイエスは、ご自分がエルサレムに行って、長老たち、祭司長たち、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、三日目によみがえらなければならないことを、弟子たちに示し始められた。

マタイ 17:22-23 彼らがガリラヤに集まっていたとき、イエスは言われた。「人の子は、人々の手に渡されようとしています。23 人の子は彼らに殺されるが、三日目によみがえります。」すると彼らはたいへん悲しんだ。

ルカ 24:16-31 25 そこでイエスは彼らに言われた。「ああ、愚かな者たち。心が鈍くて、預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち。

受難週(聖週間)ーイエスキリスト最後の 1 週間

日曜日: 棕櫚の主日(Palm Sunday)

イエスがエルサレムに入られたときに、人々が棕櫚の葉を敷いて、ロバの子に乗ったイエスを迎えたことからこの名前が付けられた

(マタイ 21:1-11 マルコ 11:1-11 ルカ 19:28-40 ヨハネ 12:12-19)

月曜日: 宮きよめ

イエスは神殿の境内に入りそこで売り買いしていた商人を追い出され、神殿が祈りの家であることを宣言された

(マタイ 21:12-17 マルコ 11:12-19 ルカ 19:45-48 ヨハネ 2:13-22)

火曜日: 多忙な 1 日、神の国のたとえ

様々なしるしと奇跡を行い、神の国のたとえや世の終わりについて語られた

(マタイ 21:18-25:46 マルコ 11:20-13:37 ルカ 20-21)

水曜日: ベタニアで香油を注がれる、イエスを引き渡す陰謀

イエスがベタニアのシモン家で食事をしていたとき、マリヤがナルドの香油をイエスの頭に注ぎかけた。これはマリヤの心からの献げものであると共にイエスの埋葬の準備であった。この晩、ユダはイエスを売り渡した。

(マタイ 26:6-13 マルコ 14:1-9 *ヨハネ 12:1-8)

木曜日: 洗足、晩餐

イエスは弟子達の足を洗われた後、二階座敷で御自分の死を予告されて、聖餐式を制定された。この後イエスは、ゲッセマネで祈りの格闘をされた後、ユダの裏切りによって当局者に捕らえられることとなる

(マタイ 26:17-75 マルコ 14:12-72 ルカ 22:7-63)

金曜日：受難日(Good Friday)

イエスは鞭打たれ、人々から嘲られて、ゴルゴタの十字架への道を重い十字架を背負って歩く。そして祭司長、律法学者達の手によって十字架に掛けられる。人類の贖いが完成して、神殿の幕が真っ二つに裂ける



(マタイ 27:1-61 マルコ 15 ルカ 22:66-23:56 ヨハネ 18:28-19:38)

土曜日：墓の中、沈黙の日

金曜日の夜イエスは墓に葬られた。当局者はイエスの死体が盗まれないように、墓を閉じていた石に封印をして番兵に番をさせる

(マタイ 27:62-66)